

平成31年度

一般入試選抜要項

京都大学

◇ 目 次

※特色入試については別途公表している「特色入試学生募集要項」をご覧ください。

京都大学の基本理念・京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）・・・	1
Ⅰ 入学定員・募集方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ⅱ 出願資格・・	4
Ⅲ 入学者選抜方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
Ⅳ 個別学力検査等実施期日・時間，実施場所・・・・・・・・・・・・・・・・	7
Ⅴ 入学者選抜の実施教科・科目等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
Ⅵ 京都大学の学力検査の出題方針について・・・・・・・・・・・・・・・・	9
Ⅶ 外国学校出身者のための選考・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
Ⅷ 工学部地球工学科国際コースについて・・・・・・・・・・・・・・・・	40
Ⅸ 特色入試について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41
X 障害等のある受験者に対する合理的配慮について・・・・・・・・	42
参考 学部・学科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）・・・	43
京都大学構内図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
インターネット出願の導入について・・・・・・・・・・・・・・・・	51
大学案内等の請求方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	51

◇ 学部・学科に関する問い合わせ先

学 部	担当掛	電話番号	住 所
総合人間学部	教務掛	075-753-7875	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
文学部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町
教育学部	教務掛	075-753-3010	
法学部	教務掛	075-753-3107	
経済学部	教務掛	075-753-3406	
理学部	学部教務掛	075-753-3637	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
医学部医学科	学部教務掛	075-753-4325	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
医学部人間健康科学科	教務掛	075-753-9313	
薬学部	教務掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町
工学部	教務掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町
農学部	学部教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

◇ 入学試験に関する問い合わせ先

担当部課	電話番号	住 所	URL
教育推進・学生支援部入試企画課	075-753-2521	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.kyoto-u.ac.jp

—京都大学の基本理念—

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、基本理念が定められ、教育の基本理念として以下のとおり定めています。

- 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
- 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

—京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）—

【学士課程】

京都大学は、日本の文化、学術が育まれてきた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から1世紀以上を経た21世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探求し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切に研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。

京都大学が入学を希望する者に求めるものは、以下に掲げる基礎的な学力です。

1. 高等学校の教育課程の教科・科目の修得により培われる分析力と俯瞰力
2. 高等学校の教育課程の教科・科目で修得した内容を活用する力
3. 外国語運用能力を含むコミュニケーションに関する力

このような基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な学びへ進むことが可能となります。

京都大学は、本学の学風と理念を理解して、意欲と主体性をもって勉学に励むことのできる人を国内外から広く受け入れます。

受入れにおいては、各学部の理念と教育目的に応じて、その必要とするところにしたがって、入学者を選抜します。一般入試では、教科・科目等を定めて、大学入試センター試験と個別学力検査の結果を用いて基礎学力を評価します。特色入試では、書類審査と各学部が定める方法により、高等学校での学修における行動や成果、個々の学部・学科の教育を受けるにふさわしい能力と志を評価します。

I 入学定員・募集方法等

1. 入学定員・募集人員

特色入試（法学部を除く）において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えられます。

募集人員 学部・学科		入学定員	募集区分		
			前期日程	後期日程	その他の選抜方法
総合人間学部		120	文系 62 理系 53		特色入試：5人
文学部		220	210		特色入試：10人
教育学部		60	文系 44 理系 10		特色入試：6人
法学部		330	310 <small>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)</small>	20 <small>(後期日程の募集は特色入試として行う)</small>	外国学校出身者のための選考：10人以内
経済学部		240	文系 190 <small>(外国学校出身者のための選考10人以内含む)</small> 理系 25		特色入試：25人 外国学校出身者のための選考：10人以内
理学部		311	306		特色入試：5人
医学部	医学科	107	102		特色入試：5人
	人間健康科学科	100	70		【先端看護科学コース】 特色入試：20人 【先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)】 特色入試：5人 【先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)】 特色入試：5人
	計	207	172		
薬学部※1	薬科学科・薬学科	80	74		【薬科学科】 特色入試：3人 【薬学科】 特色入試：3人
工学部※2	地球工学科 建築工学科 物理工学科 電気電子工学科 情報工学科 工業化学科	955	928 <small>(別表2のとおり)</small>		【地球工学科】 特色入試：3人 国際コースのための選考：30人以内 【建築工学科】 特色入試：2人 【物理工学科】 特色入試：5人 【電気電子工学科】 特色入試：7人 【情報工学科】 特色入試：3人 【工業化学科】 特色入試：7人
農学部※2	資源生物科学科 応用生命科学科 地域環境工学科 食料・環境経済学科 森林科学科 食品生物科学科	300	282 <small>(別表3のとおり)</small>		【資源生物科学科】 特色入試：3人 【応用生命科学科】 特色入試：3人 【地域環境工学科】 特色入試：3人 【食料・環境経済学科】 特色入試：3人 【森林科学科】 特色入試：3人 【食品生物科学科】 特色入試：3人
合計		2,823	2,666	20	

※1 薬学部は、入学定員を学部として定め、学科振り分けは、本人の志望や学業成績等に基づいて、別表1のとおり4年次進級時に行われます。

学部・学科等	学科振り分け定員
薬学部	薬科学科 65 <small>(特色入試入学者3名を含む)</small>
	薬学科 15 <small>(特色入試入学者3名を含む)</small>

※2 工学部と農学部は、入学定員を学部として定め、別表2と別表3のとおり、受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。

学部・学科等	受入学生数(目安)
工学部	地球工学科 182 <small>(国際コースのための選考30人以内含む)</small>
	建築工学科 78
	物理工学科 230
	電気電子工学科 123
	情報工学科 87
	工業化学科 228

工学部は学科を第2志望まで選択することができます。

学部・学科等	受入学生数(目安)
農学部	資源生物科学科 91
	応用生命科学科 44
	地域環境工学科 34
	食料・環境経済学科 29
	森林科学科 54
	食品生物科学科 30

農学部は学科を第6志望まで選択することができます。

2. 試験実施方式・日程

本学は、分離分割方式による前期・後期日程試験を実施します。

志願者は、分離分割方式の「前期日程」の大学・学部等から1つ、「後期日程」の大学・学部等から1つの合計2つの大学・学部等に出願することができます。

日程	学生募集要項 発表	インターネット 出願登録・入学 検定料納入期間	出願期間	第1段階選抜 合格者発表(※)	試験実施日	合格発表日
前期	12月中旬	1月21日(月) ～2月6日(水)	1月28日(月) ～2月6日(水)	2月13日(水)	2月25日(月) 26日(火) 27日(水) ※27日は医学部医学科 の面接のみ実施	3月10日 (日)
後期 (法学部のみ)	7月中旬	1月21日(月) ～2月6日(水)	1月28日(月) ～2月6日(水)	2月28日(木)	3月12日(火)	3月23日 (土)

(※) 法学部後期日程(特色入試)については第1次選考合格者発表とする。

3. 募集方法等

- (1) 総合人間学部, 教育学部, 経済学部は, 募集人員を「文系」試験及び「理系」試験に分けて募集します。
- (2) 法学部は入学定員を「前期日程」試験及び「後期日程(特色入試)」試験に分けて募集します。
- (3) 医学部は, 学科別に募集します。
- (4) 薬学部は, 薬科学科と薬学科を合わせた学部単位で募集(両学科一括募集)し, 合格者を決定します。
- (5) 工学部は, 学部として募集しますが, 受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。
なお, 第1～第2志望まで学科を選択することができます。
- (6) 農学部は, 学部として募集しますが, 受入学生数を目安として学科別に合格者を決定します。
なお, 第1～第6志望まで学科を選択することができます。

Ⅱ 出願資格

次のいずれかに該当する者で、平成 31 年度大学入試センター試験において受験を課す教科・科目（14～35 ページに記載した各学部の「大学入試センター試験の利用教科・科目名」欄参照）のすべてを受験した者

1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成 31 年 3 月卒業見込みの者
2. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 31 年 3 月修了見込みの者
3. 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
5. 文部科学大臣が指定する専修学校の高等課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
6. 文部科学大臣の指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号—大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の指定—）
7. 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）に合格した者及び平成 31 年 3 月 31 日までに合格見込みの者で、平成 31 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの
8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 31 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの
→下記【個別入学資格審査の申請方法等】参照

【個別入学資格審査の申請方法等】

出願資格 8. により出願を希望する者は、 事前に個別の入学資格審査を申請してください。審査の結果、資格を認定された場合のみ出願が認められます。

なお、出願資格 1.～7.により出願を希望する者は、入学資格審査を申請する必要はありません。

1. 入学資格認定の申請対象者

出願資格 8. として申請可能な者は、学校教育法施行規則第 150 条第 7 号に該当する者で、外国人を対象に教育を行うことを目的にして我が国に設置された教育施設において高等学校に対応する 3 年に相当する学習歴を有する又は有する見込みのものです。

2. 申請書類

- ① 入学資格認定申請書（本学所定の様式）
- ② 出身教育施設の修了（又は修了見込み）証明書
- ③ 出身教育施設の規則等
- ④ 出身教育施設のカリキュラム（修業年限、授業時間数、授業科目、必要単位数等が明記されたもの）
- ⑤ 返信用封筒〔長形 3 号封筒に申請者の住所・氏名を明記して、792 円分（書留速達料金）の切手貼付〕

3. 申請受理期間

- (1) 平成 30 年 7 月 20 日（金）～ 9 月 3 日（月）
- (2) 平成 31 年 1 月 21 日（月）～ 1 月 23 日（水）

（平成 31 年度大学入試センター試験を受験した者に限る。）

上記期間内に「書留速達郵便」にて、「入学資格認定申請書類在中」と朱書し、郵送（期限内必着）してください。なお、提出された書類は一切返却しません。

4. 審査方法

申請者から提出された入学資格認定申請書及び出身教育施設の修了（又は修了見込み）証明書等に基づき審査します。

5. 認定基準

認定の基準は、専修学校高等課程の修了者に入学資格を認める基準を準用し、各教科の修得単位数等について、原則として次に掲げる条件を満たした教育を行う施設で当該教育を修了していること、又は修了する見込みであること。

(1) 修了に必要な総単位数は、2,590 単位時間以上とする。

(2) 修了に必要な普通教科の総単位数は、420 単位時間以上とする。普通教科は国語（日本語）、地理歴史、公民、数学、理科、外国語とする。

(3) 前項の教科以外の履修が、前項の教科と同様の成果が期待できる場合においては、その教科の履修をもって、前項の教科の一部又は全部に替えることができる。

※ 単位については、1 単位時間を 50 分とする。

6. 認定について

審査の結果、入学資格認定者には認定書を交付します。認定書を一度交付された場合、再度申請する必要はありません。

7. 提出先・照会先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課
TEL 075-753-2521

※ 申請予定者は申請前に必ず連絡してください。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災した者で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。詳しくは、入試企画課（TEL：075-753-2521）へお問い合わせください。

Ⅲ 入学者選抜方法等

1. 入学者選抜は、大学入試センター試験の成績、一般入試個別学力検査（以下、「個別学力検査」と省略）等の成績及び調査書を資料とし、各学部の判断基準により総合して判定します。
 学力検査等の成績判定は、大学入試センター試験の成績を14～35ページに記載した「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」欄の配点に換算したうえ、これと個別学力検査等の成績とを総合して行います。
 なお、大学入試センター試験の成績の複数年度利用は行いません。
2. 定員に対する倍率、大学入試センター試験の得点により第1段階選抜（※）を行うことがあります。
 その場合、各学部において下記により、第1段階選抜合格者を決定し、個別学力検査等を行います。
 （※）法学部後期日程（特色入試）については第1次選考とする。
3. 社会人入試、専門高校・総合学科卒業生入試は行いません。

学部名等		選抜方法等		個別学力検査等							外国学校出身者のための特別選考	その他の選抜
		個別学力検査	実技検査等					第1段階選抜※1				
			実技検査	論述試験	面接	論文	英語における聞き取りテスト	募集人員に対する倍率	その他			
総合人間学部	文系	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	×	×
	理系	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	×	×
文学部		○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	×	×
教育学部	文系	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	×	×
	理系	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	×	×
法学部	前期日程	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	○※2	×
	後期日程（特色入試）	×	×	×	×	○	×	×	約15.0倍	×		
経済学部	文系	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×	○※2	×
	理系	○	×	×	×	×	×	×	約3.5倍	×		
理学部		○	×	×	×	×	×	×	×	○※3	×	×
医学部	医学科	○	×	×	○	×	×	×	○※4			
	人間健康科学科	○	×	×	×	×	×	×	学部募集人員の約3.5倍	×	×	×
薬学部	薬科学科・薬学科	○	×	×	×	×	×	×	学部募集人員の約3.5倍	×	×	×
工学部	地球工学科	○	×	×	×	×	×	×	学部募集人員の約3.0倍	×	×	○※5
	建築学科	○	×	×	×	×	×	×				
	物理工学科	○	×	×	×	×	×	×				
	電気電子工学科	○	×	×	×	×	×	×				
	情報学科	○	×	×	×	×	×	×				
	工業化学科	○	×	×	×	×	×	×				
農学部	資源生物科学科	○	×	×	×	×	×	×	学部募集人員の約3.5倍	×	×	×
	応用生命科学科	○	×	×	×	×	×	×				
	地域環境工学科	○	×	×	×	×	×	×				
	食料・環境経済学科	○	×	×	×	×	×	×				
	森林科学科	○	×	×	×	×	×	×				
	食品生物科学科	○	×	×	×	×	×	×				

- ※1 法学部後期日程（特色入試）については第1次選考とする
- ※2 外国学校出身者の特別選考については36～39ページ参照のこと
- ※3 大学入試センター試験の5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者
- ※4 大学入試センター試験の5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍までの者
- ※5 工学部地球工学科は、外国人留学生を対象とした国際コースのための特別選考を別途行う（特別選考については40ページ参照のこと）

Ⅳ 個別学力検査等実施期日・時間、実施場所

1. 個別学力検査等実施期日・時間

学 部	日程等	2月25日(月)				2月26日(火)				2月27日(水)		3月12日(火)	
		教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間	教科等	時間
総合人間 学 部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
文 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
教育学部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科 (1科目)	15時00分 ～ 16時30分				
法学部	前期	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	後期												
経済学部	文系	国 語	9時30分 ～ 11時30分	数 学	13時30分 ～ 15時30分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	地理歴史	13時30分 ～ 15時00分				
	理系	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分						
理 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
医 学 部	医 学 科	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分	面 接	9時00分 ～ 17時30分		
	人 間 健 康 科	国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
薬 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
工 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語 (英語のみ)	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				
農 学 部		国 語	9時30分 ～ 11時00分	数 学	13時30分 ～ 16時00分	外国語	9時30分 ～ 11時30分	理 科	13時30分 ～ 16時30分				

2. 個別学力検査等実施場所

全学部吉田キャンパス(京都市左京区)で実施する予定です。
 ただし、志願者数によりそれ以外の場所で実施することもあります。
 個別学力検査等の実施場所、経路等の詳細は、受験票発送時にお知らせします。

V 入学者選抜の実施教科・科目等

1. 平成30年度入試からの変更点について

変更点はありません。詳細は各学部のページで確認してください。

2. 教科・科目名の略称について

大学入試センター試験及び個別学力検査の教科・科目名は、以下のように略しています。

国語→国

地理歴史→地歴，世界史B→世B，日本史B→日B，「倫理，政治・経済」→「倫，政経」

数学→数，数学Ⅰ→数Ⅰ，数学Ⅱ→数Ⅱ，数学Ⅲ→数Ⅲ，数学A→数A，数学B→数B

理科→理，物理基礎→物基，化学基礎→化基，生物基礎→生基，地学基礎→地基

外国語→外，英語→英，ドイツ語→独，フランス語→仏，中国語→中，韓国語→韓

【注意】大学入試センター試験の成績利用の方法について

大学入試センター試験の「地理歴史・公民」及び「理科」について1科目が課されている場合、2科目受験者については、第1解答科目の成績を用います。

第1解答科目が学部の指定した利用教科・科目でない場合は、出願資格を無資格としますので、注意してください。

VI 京都大学の学力検査の出題方針について

京都大学が入学者を選抜するため実施する個別学力検査の出題教科・科目は、高等学校学習指導要領による教育課程にしたがって学ぶ教科と科目に対応しています。出題教科・科目における出題範囲と学習指導要領上の教科・科目の関係は次の表のとおりです。

出題教科・科目	学習指導要領上の教科・科目
国語	
文系, 理系	国語総合, 現代文B, 古典B
地理歴史	
日本史	日本史B
世界史	世界史B
地理	地理B
数学	
文系	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B
理系	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学Ⅲ, 数学A, 数学B
理科	
物理	物理基礎, 物理
化学	化学基礎, 化学
生物	生物基礎, 生物
地学	地学基礎, 地学
外国語	
英語	コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ
ドイツ語	
フランス語	
中国語	

京都大学の学部(医学部の場合, 学科)は、それぞれの入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に基づいて学力検査の内容を定めています。京都大学が実施する学力検査は、知識の活用から思考力と表現力まで、受験者に備わった学習能力を評価します。

この「出題方針」は、高等学校段階までにどのような学習能力と学習態度を培うことを求めているのか、また、そうした能力と態度をどのような基準により評価しようとしているのかを示すものです。

高等学校の教育課程は、国語、地理歴史、数学、理科、外国語だけからなるものではありません。京都大学が入学志願者に求めている学習能力は、高等学校の教育課程全般を通

じて培われてくるものです。

こうして出題方針を示すことが、京都大学の入学志願者が受ける学力検査を理解するために役立つことを期待しています。

1. 国語の出題方針

日本語の文章の論理や論旨、あるいは作者の心情や表現の意図を、的確に理解し、自らの言葉で論理的にその理解を表現できることを評価します。そのため、文章のジャンルとして論説文、随筆、小説など、さらに文体についても明治擬古文まで含め、幅広く問題文を選び、漢字の書き取りや、文章表現の持つ意味、あるいは論理展開の説明をはじめとして、登場人物の言動に託された著者の意図、さらには問題文全体の論旨を問うなど、論述の形式で問題を課します。

古典文法についての正確な理解を持つとともに、古典の修辞などの基礎知識をもち、的確に古文および漢文の文章を理解できると同時に、原文を現代語訳できることを評価します。そのため、物語や歴史、随筆、日記をはじめとして、ジャンルや時代を限らず、幅広く問題文を選び、語句や修辞の説明、文章の現代語訳、さらに登場人物の言動の理解から問題文全体の論旨に至るまで、さまざまな形式で論述問題を課します。

「国語」は、国語(文系)と国語(理系)と区分をして出題します。この二つの間で、学習指導要領の国語科の科目からみて出題の範囲に変わりはありませんが、出題される問題が異なることがあります。

2. 地理歴史の出題方針

日本史

「日本史」では、原始・古代から現代まで各時代の政治・社会・文化の特色を、個別の事象や知識を相互に関係づけてとらえ、さらに前後の時代や世界史との関係において考える分析力と俯瞰力が求められます。また、教科書をはじめとした歴史叙述は、遺跡・遺物や文書・記録などさまざまな歴史資料の研究結果に基づいていますが、こうした歴史資料に親しみ、それらを自ら読み解いていく意欲と能力が求められます。なお、「日本」という領域は歴史的に形成されてきたものですが、各時代の周辺諸地域との交流や国際的

な諸関係の中に位置づけて理解できることも必要だと考えています。

「日本史」の出題では、以上のような観点から、教科書から得られる基礎的な知識を活用しながら、広い視野での総合的な理解力を問う問題や、事象の正確な把握をふまえ、道筋を立てて説明する能力を問う問題を、出題しています。

世界史

「世界史」では、個々の地域世界の成立と発展、地域世界間の交流、近代以降の時代における諸地域世界の結合と変容、そして今日の地球世界の到来という世界史の潮流を、幅広い視野から総合的に把握し、考察する能力が求められます。

「世界史」の出題では、狭義の一國史よりも地域社会を単位として重視しつつ、政治・社会・文化の様々な側面について、個々の地域世界の内部の展開および地域世界間の相互関係を適切に把握しているかを問うことに重点を置いています。このような観点から、教科書に記載されている個々の歴史的事象をその背景とともに理解しているかを問う問題や、様々な歴史的事象を一貫した論理の下に相互に関連づけて歴史的潮流を説明する能力を問う問題を、出題しています。

地理

「地理」では、現代世界の地理的事象を、自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教などの側面から理解する系統地理的能力、ならびに、諸地域における個別の事象や諸事象間の結びつきから理解する地誌的能力を有するとともに、今日の諸課題に関する地球的視野からの広い理解力が求められます。

「地理」の出題では、基礎的な学力を踏まえた、広い理解力や論理的な思考力を問うことに重点を置いています。このような観点から、地図(地形図を含む)、写真、統計などの資料を使って、世界の地理的諸事情を系統地理的あるいは地誌的視角から総合的に把握しているかを問う問題や、こうした事象の形成要因やその時間的変化を的確に説明する能力を問う問題を、出題しています。

3. 数学の出題方針

我が国の高等学校と中学校では、身近な現象や事象を「数学」の視点から捉えて数学の問題を作り出すこと、また数学に現れる様々な事項を理解して論理的に考察したり処理したりすること、さらには得られた数学的な知識を利用して身近な現象・事象の理解を深めたり問題解決に役立てることの全般を「数学的活動」と呼んでいます。このような数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めること、事象や現象を数学的に表現する能力を高めること、さらには学習を通して創造性の基礎を涵養するとともに数学の良さを認識し、数学的な知識を論理的根拠に基づいて積極的に活用して判断しようとする態度を育てることが高等学校における数学学習の目標であると、学習指導要領は定めています。本学の学力検査における数学は、高等学校卒業までに学習する数学について、入学志願者がこの学習目標をどの程度達成しているかを評価し判断するものです。

数学の学力とは、単に計算力や論理力だけを指すものではなく、数学的な直観力や、式や数学の概念を利用した表現力なども含まれるものと考えています。したがって、我が国の小学校入学から高等学校卒業までに学習する数学的な概念、原理、法則、公式などの事項のすべてについて、個々の知識の有無だけを単に評価するのではなく、上述のような総合的な数学力を評価する問題を出題するように心掛けています。このため、個別学力検査では、数学的な表現力を評価するため、論述形式の解答となるような出題を主体にします。

具体的には、計算問題であっても、単に計算結果だけではなく、その過程や背後の論理性を評価するような出題を心掛けています。また、論理を問う問題では直観、類推、帰納、演繹等の数学的考察を正確な数学的表現力で記述する能力を評価できるような出題を心掛けています。数学の問題ではいわゆる「正解」に至ることは大切ですが、「正解に至る論理的に正しい過程」も正解と同様に大切です。

高等学校卒業までに学習する概念、原理、法則、公式といった数学的な知識や事項の記

述は、現状では教科書によってその扱いや書き方が多少異なっていますが、本学の数学において出題範囲としている内容について、いずれかの検定済教科書で記述されている事項はすべて出題範囲に含まれていると考えています。現状の数学の高等学校用検定済教科書の内容は、高等学校学習指導要領を踏まえてそこに定められる事項をすべて含みつつ、高等学校卒業までに培われる「数学的活動」の能力によって修得できる程度の事項について幅広く記述されています。したがって、個別学力検査における出題に際しても、高等学校学習指導要領を十分に踏まえた上で、いずれかの検定済教科書で記述されている程度の、高等学校卒業までに得られる論理力から理解できる程度の幅広い事項は出題対象であると考えています。問題作成にあたっては、単発的な個別の数学的知識を問う問題や、解法の暗記によって対処できるような問題を排するように心掛けています。さらに、出題範囲に含まれている複数単元でそれぞれに学習する数学的な知識を論理的・系統的に理解することによって問題解決に到達するいわゆる「融合問題」の出題を通して、数学的な知識の活用力も評価します。

数学（理系）では、出題の範囲に数学Ⅲが含まれます。数学（文系）と数学（理系）の間では出題される問題が異なることがありますが、出題の方針に変わりはありません。

4. 理科の出題方針

物理

高等学校で学ぶ物理では、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、体系化された知識に基づいて自然の事物・現象を分析的かつ総合的に考察する能力を身に付けることを目標としています。物理学の基礎知識や考え方は、「力と運動」、「エネルギー」、「電気と磁気」、「波」、「熱と温度」、「分子や原子」といった様々な概念や原理・法則を系統的に理解するために必須のものであり、十分な修得が求められます。

個別学力検査「物理」においては、物理学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。出題の形式においては、知識の確認、物理的思考、

計算力を総合的に判断できるように問題を配置します。さらに、思考の過程と論証力を測る目的の記述式問題も出題します。そして、知識の羅列のみでなく、物理的思考、論証力、計算力を総合的に評価します。

化学

高等学校で学ぶ化学では、原子・分子と化学結合の概念を正しく捉えた上で、物質の性質や物質の変化に関する基本的な原理・法則の理解を深めることを目標としています。また、それらの原理・法則をただ記憶するのではなく、観察・実験を通して物質の具体的な性質や反応と結び付けて理解し、それらを活用する能力を身に付けることを目指しています。すなわち、無機物質、有機化合物、高分子化合物などの個々の性質や反応についての知識を単に蓄積するのではなく、それらに基づいて論理的に思考できることが重要です。

個別学力検査「化学」では、化学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。出題にあたっては、物質に関する基本的な知識が身についているかを問い、化学の基本となる概念や原理・法則を活用する能力を試します。さらに、反応式、構造式を適切に表記し、定性的あるいは定量的な考察を論理的に記述できるかも問います。

生物

高等学校で学ぶ生物では、生物や生物現象への関心を高め、目的をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解することを目標としています。遺伝子から生態系にいたる様々な生物学的事象についての基礎知識は、現代社会が直面する医療、生命倫理、食糧生産、環境保全、生物多様性保全といった重要な課題に対応する上で必須のものであり、十分な修得が求められます。

個別学力検査「生物」においては、生物学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。さらに、

修得した知識に基づいて、生物や生物現象に関する観察や実験の結果を適切に解釈し結論を導く能力を重視し、それを評価するために、記述・論述問題を取り入れます。

地学

高等学校で学ぶ地学では、日常生活や社会との関連を図りながら、地球と地球を取り巻く環境、および宇宙への関心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育成するとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を養うことを目標としています。

個別学力検査「地学」では、地学に関する基本的事項の理解度をみるために、本学が指定する出題範囲から、できるだけ分野的な偏りがないように出題します。また、個別的な知識を問うだけでなく、地学的な基礎知識を活用して地学的現象を科学的に理解し、総合的かつ論理的に説明し、記述する能力を評価できるような問題を出題します。

5. 外国語の出題方針

外国語については、英語、ドイツ語、フランス語、中国語を出題します。

入学志願者には、外国語で書かれた情報を正確に理解するだけでなく、自らの主張や意見を、外国語を使って発信する能力を培うことを求めます。学力検査では、出題する個々の言語についての基礎的な学力とその応用力を評価の対象とします。以下、英語を例として出題の方針を説明します。

個別学力検査「英語」では、ただ単に英語を話すだけではなく、英語で書かれた論文や学術的な内容の記事を正しく理解し、その内容を的確にまとめ、それに対する自己の見解を効果的に表現するという、高い英語コミュニケーション能力を身につける上での基礎的な学力とその応用力を問います。この高い英語コミュニケーション能力は、しっかりした語彙力や慣用表現の知識、構文や文法の理解などを基盤としてようやく実現されるものです。

このような基礎的な学力とその応用力を問うために、まとまった内容の英文和訳や和文英訳を求める問題を多用します。語彙知識

を問うことに加えて、文法事項のうちでも特に論理的な思考と表現に欠かせない関係代名詞や関係副詞、仮定法、分詞構文などの理解力や、代名詞の指示対象の的確な理解力を問います。未学習の語句の意味を前後の文脈から正しく推測して、文章全体の主旨を速やかに把握する能力も問います。このような出題を通して、単なる訳出ではなく、包括的な英語の理解力と表現力を重視して評価します。

【総合人間学部】

◇募集人員115人（前期日程：文系62人・理系53人）

※特色入試において最終的な入学手続き数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

学力検査等の区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等		
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		配点合計	
文系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	*	50		*	100	*	150	特色入試 追加合格	
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1			個別学力検査	150	100		200		200		650
	公民	「倫, 政経」 } から2	数	数I・数II・数A・数B				計	150	150	200	100	200		800
数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1												
理	理	物基, 化基, } から2													
外	生基, 地基 } から2														
	※(注1) 1. 参照)														
	英, 独, 仏, 中, 韓 から1														
	[5教科8科目] または [6教科8科目]														
理系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	*	100		*	*	*	100		
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B			個別学力検査	150			200	200	150		700
	公民	「倫, 政経」 } から1	理	物理, 化学, } から2				計	150	100	200	200	150		800
数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1												
理	物理, 化学, } から2														
外	生物, 地学 } から2														
	※(注1) 2. 参照)														
	英, 独, 仏, 中, 韓 から1														
	[5教科7科目]														

【注1】「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 文系の「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 理系の「地理歴史、公民」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語250点満点（筆記200点満点、リスニング50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行います。

(注2)「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について

大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

2. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

(5) 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

4. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

5. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

(注3)「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」について

大学入試センター試験で課す*印の付いた教科の得点は、他の教科と併せて第1段階選抜のための得点対象としますが、学力検査等の得点対象としません。

【文学部】

◇募集人員210人（前期日程：210人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等	
教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		配点合計
国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	50	50		50	50	50	250	特色入試追加合格
地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1										
公民	「倫, 政経」	数	数I・数II・数A・数B										
数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1		個別学力検査	150	100		100		150	500	
理	物基, 化基, } から2				計	200	150		150	50	200	750	
外	生基, 地基 (※注1 1.参照)												
	英, 独, 仏, 中, 韓 から1												
	(5教科8科目) または (6教科8科目)												

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点、リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学I」、「数学II」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学I」、「数学II」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【教育学部】

◇募集人員54人（前期日程：文系44人・理系10人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

学力検査等の区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等	
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		配点合計
文系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約 3.5倍	センター試験	50	50		50	50	50	250	特色入試 追加合格
	地歴	世B、日B、地理B、	地歴	世B、日B、地理B から1										
	公民	「倫、政経」 } から2	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B										
理系	数	「数Ⅰ・数A」、 「数Ⅱ・数B」	外	英、独、仏、中 から1	約 3.5倍	個別学力検査	200	100		150		200	650	
	理	物基、化基、 生基、地基 } から2 (※注1 2.参照)												
	外	英、独、仏、中、韓 から1 (5教科8科目)または(6教科8科目)												
理系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約 3.5倍	センター試験	50	50		50	50	50	250	
	地歴	世B、日B、地理B、	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B										
	公民	「倫、政経」 } から1	理	物理、化学、 生物、地学 } から1										
理系	数	「数Ⅰ・数A」、 「数Ⅱ・数B」	外	英、独、仏、中 から1	約 3.5倍	個別学力検査	150			200	100	200	650	
	理	物理、化学、 生物、地学 } から2												
	外	英、独、仏、中、韓 から1 (5教科7科目)												
計						250	150		200	50	250	900		

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 理系の「地理歴史、公民」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
2. 文系の「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点、リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

(注2)「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について

大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

2. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

(5) 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

4. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

5. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【法学部】

◇入学定員330人（募集人員 前期日程 310人（外国学校出身者のための選考入学者10人以内を含む）

後期日程（特色入試）20人）

※法学部は「前期日程」試験及び「後期日程（特色入試）」試験に分けて募集します。

※「後期日程（特色入試）」試験については22～23ページ参照。

募集区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等	
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		配点合計
前期	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	前期募集人員の約3.5倍	センター試験	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)	270(900)	外国学校出身者 追加合格
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1		個別学力検査	150	100		150		150	550	
	公民	「倫, 政経」 } から2 (※注1 1参照)	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B										
後期	数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1										
	理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 } から2 (※注1 2参照)				計							820	
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 <small>〔5教科8科目〕または〔6教科8科目〕</small>												

※法学部の試験成績は、大学入試センター試験の成績（合計の900点満点を270点満点に換算）と個別学力検査の成績（550点満点）とを総合（820点満点）して算出します。

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史、公民」について、「世界史B」と「日本史B」のうちの少なくとも1科目が含まれるように、2科目を選択してください。
- 「理科」について、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点、リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行います。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「地理歴史」について
大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【法学部 特色入試】（後期日程）

◇募集人員20人

募集区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		能力測定考査			大学入試センター試験・能力測定考査の配点等									
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1次選考	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	小論文	配点合計	
後期 (特色入試)	国	国語	その他	小論文	後期募集人員の約15.0倍	センター試験	(200)	(200)		(200)	(100)	(200)		270 (900)	
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2				能力測定考査							100	100	
	公民	「倫, 政経」 (※注1 1参照)													
	数	「数I・数A」, 「数II・数B」													
	理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2参照)				計							370		
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (5教科8科目) または (6教科8科目)													

※合格者は、第1次選考に合格した者について、大学入試センター試験の成績（合計の900点満点を270点満点に換算）及び小論文試験の成績（100点満点）により決定します。

※別途公表している「特色入試学生募集要項」も併せて確認してください。

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 「地理歴史, 公民」について、「世界史B」と「日本史B」のうちの少なくとも1科目が含まれるように、2科目を選択してください。
2. 「理科」について、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」（以下、「基礎を付した科目」という。）のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点（200点満点）を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点, リスニング 50点満点）を第1次選考においては200点満点に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1次選考を行います。

(注2)「能力測定考査」について

1. 「小論文」について

小論文試験は、日本語と英語の文章を題材に、読解力、論理的思考力、表現力などについて評価します。

2. 第1次選考について

第1次選考は、大学入試センター試験及び調査書の成績により選考を行い、募集人員の15.0倍程度を目安として合格者を決定します。

【経済学部】

◇募集人員215人（前期日程：文系190人・理系25人・その他若干名）

※特色入試において最終的な入学手続き数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

※「文系」は外国学校出身者のための選考入学者10人以内を含む。

学力検査等の区分	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	
文系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	250	外国学校出身者
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から2	地歴	世B, 日B, 地理B から1									
	公民	「倫, 政経」	数	数I・数II・数A・数B									
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	約3.5倍	個別学力検査	150	100	150	150	150	550	外国人 特色入試
	理	物基, 化基, } から2 生基, 地基 (※注1 2参照)											
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (5教科8科目)または(6教科8科目)											
理系	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	250	追加合格
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B									
	公民	「倫, 政経」	外	英, 独, 仏, 中 から1									
理系	数	「数I・数A」, 「数II・数B」			約3.5倍	個別学力検査	150		300	200	200	650	
	理	物理, 化学, } から1 生物, 地学											
	外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1 (5教科6科目)											
						計	200	150	200	50	200	800	
						計	200	50	350	50	250	900	

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

1. 理系の「地理歴史, 公民」及び「理科」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
2. 文系の「理科」について、「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」(以下、「基礎を付した科目」という。)のうちから2科目を選択するかわりに、「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、合計得点(200点満点)を「基礎を付した科目」の合計得点と同じ100点満点に換算します。
3. 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語250点満点(筆記200点満点, リスニング50点満点)を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語, フランス語, 中国語, 韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

(注2)「個別学力検査等」について

1. 「地理歴史」について

大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

2. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

文系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学A」、「数学B」の4科目を併せて「数学」として出題します。

理系：「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が各選抜区分の募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、各選抜区分の大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【理学部】

◇募集人員306人（前期日程：306人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等
教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	
国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	センター試験の得点が630点以上 （※注2 4参照）	センター試験	50	25	50	50	50	225	特色入試追加合格
地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数I・数II・数III・数A・数B									
公民	「倫, 政経」	理	物理, 化学, } から2									
数	「数I・数A」, 「数II・数B」	外	英	個別学力検査	150			300	300	225	975	
理	物理, 化学, } から2			計	200	25		350	350	275	1200	
外	英											

〔5教科7科目〕

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史, 公民」について, 2科目を受験したときは, 第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については, 以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点, リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては 200点満点に換算して利用し, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は, リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお, リスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い, 学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学I」, 「数学II」, 「数学III」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学I」, 「数学II」, 「数学III」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
 - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
 - 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

利用する大学入試センター試験5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者を第1段階選抜合格者とします。

【医学部】

◇募集人員172人（前期日程：医学科102人，人間健康科学科 70人）

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等										
	教科	科目名等	教科等	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		面接	配点合計								
医学科	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	※注2 5.(1) 参照	センター試験	50	50	50	50	50	50	250	特色入試 追加合格									
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B											個別学力検査	150			250	300	300	※注2 4.参照	1000
	公民	「倫, 政経」	理	物理, 化学, 生物 から2																			
数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	英, 独, 仏, 中 から1	物理, 化学, 生物 から2	200	50	300	350	350	※注2 4.参照	1250												
理	物理, 化学, 生物 から2	その他	面接(※注2 4.参照)																				
外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1																						
		(5教科7科目)																					
人間健康科学科	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学科募集人員の 約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	50	250	特色入試 追加合格									
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B											個別学力検査	150			200	200	200	750	
	公民	「倫, 政経」	理	物理, 化学, 生物 から2																			計
数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」	外	英																				
理	物理, 化学, 生物 から2																						
外	英, 独, 仏, 中, 韓 から1																						
		(5教科7科目)																					

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。
英語 250点満点（筆記 200点満点，リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。

2. 「理科」について

- (1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
- (2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
- (3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
- (4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 「面接」について

医学科：面接試験では、「医学部医学科が望む学生像」（【学部・学科の入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）】参照）に記載されている医師・医学研究者としての適性・人間性などについて評価を行い、学科試験の成績と総合して合否を判定します。

従って、学科試験の成績の如何にかかわらず不合格となることがあります。

調査書は、面接の参考資料にします。

高等学校卒業後5年以上で調査書の記載がないもの、記載内容が不明確なもの、あるいは、疑義のあるものなどは、別途指定した書類の提出を卒業学校等へ依頼することがあります。

また、面接の参考資料とするため、個別学力検査受験者全員から、履歴書・志望理由などを記載した書類（受験票送付時に同封する本学科所定用紙）の提出を求めます。

5. 第1段階選抜について

- (1) 医学科は、利用する大学入試センター試験5教科7科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍までの者を総得点の順位に従って第1段階選抜の合格者とします。
- (2) 人間健康科学科は、入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【薬学部】

◇募集人員74人（前期日程：74人，その他若干名）

※薬学部は、薬科学科（修業年限4年、薬剤師国家試験受験資格なし）と薬学科（修業年限6年、薬剤師国家試験受験資格あり）を合わせた学部単位での募集（両学科一括募集）を行います（詳細は2ページ I 入学定員・募集方法等 1. 入学定員・募集人員を参照のこと）。

※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等				大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等						
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	配点合計							
薬科学科・薬学科	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学部募集人員の約3.5倍	センター試験	50	50	50	50	50	250	外国人(難関校)特色入試追加合格							
	地歴	世B、日B、地理B、	数	数I・数II・数III・数A・数B										個別学力検査	100		200	200	200	700
	公民	「倫、政経」	理	物理、化学、生物																
	数	「数I・数A」、 「数II・数B」																		
	理	物理、化学、生物、地学																		
	外	英、独、仏、中、韓				計	150	50	250	250	250	950								
		(5教科7科目)																		

〔注1〕「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史、公民」について、2科目を受験したときは、第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については、以下のとおり利用します。
英語250点満点（筆記200点満点、リスニング50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は、リスニングの得点を0点として取り扱います。
なお、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行い、学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

〔注2〕「個別学力検査等」について

1. 「数学」について

(1) 個別学力検査実施科目

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。

(2) 出題範囲

「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

2. 「理科」について

(1) 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。

(2) 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。

(3) 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

(4) 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

入学志願者が募集人員に対して記載する倍率を上回った場合は、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、第1段階選抜を行うことがあります。

【工学部】

- ◇募集人員928人（前期日程：地球工学科182人，建築学科78人，物理工学科230人，電気電子工学科123人，情報学科87人，工業化学科228人，その他若干名）
 ※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。
 ※地球工学科は，外国人留学生を対象とした国際コースのための選考入学者30人以内を含む。

	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の選抜方法等								
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		配点合計							
全 学 科 共 通	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学部募集人員の約3.0倍	センター試験	50	100	*	*	50	200	外国人 国際コース								
	地歴	世B, 日B, 地理B, } から1	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B										個別学力検査	100		250	250	200	800	特色入試 追加合格
	公民	「倫, 政経」	理	物理																	
数	「数Ⅰ・数A」, 「数Ⅱ・数B」		化学																		
理	物理（必ず選択すること）		外	英																	
外	化学, 生物 から1																				
	英, 独, 仏, 中, 韓 から1																				
		[5教科7科目]																			
						計	150	100	250	250	250	1000									

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。
 英語 250点満点（筆記 200点満点，リスニング 50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。
 なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記 200点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
 「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」, 「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
 「数学Ⅰ」, 「数学Ⅱ」, 「数学Ⅲ」, 「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」, 「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」,「コミュニケーション英語Ⅱ」,「コミュニケーション英語Ⅲ」,「英語表現Ⅰ」,「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

工学部全体の志願者が工学部募集人員の約3.0倍を上回った場合、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、工学部全体の志願者で第1段階選抜を行うことがあります。

5. その他

第1～第2志望まで学科を選択することができます。

(注3)「大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等」について

大学入試センター試験で課す*印の付いた教科の得点は、他の教科と併せて第1段階選抜のための得点対象としますが、学力検査等の得点対象としません。

【農学部】

◇募集人員282人（前期日程：資源生物科学科91人，応用生命科学科44人，地域環境工学科34人，食料・環境経済学科29人，森林科学科54人，食品生物科学科30人，その他若干名）
 ※特色入試において最終的な入学手続者数が募集人員に満たない場合には，残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えます。

	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等						その他の選抜方法等									
	教科	科目名等	教科	科目名等	第1段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科		外国語	配点合計							
全 学 科 共 通	国	国語	国	国語総合・現代文B・古典B	学部募集人員 の約3.5倍	センター試験	100	100	50	50	50	350	外国人 特色入試 追加合格								
	地歴	世B，日B，地理B，	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B										から1	個別学力検査	100		200	200	200	700
	公民	「倫，政経」	理	物理，化学，																	
数	「数Ⅰ・数A」，「数Ⅱ・数B」	外	生物，地学	から1	計	200	100	250	250	250	1050										
理	物理，化学，		英，独，仏，中																		
外	生物，地学																				
		英，独，仏，中，韓 から1 〔5教科7科目〕																			

（注1）「大学入試センター試験の利用教科・科目名」について

- 「地理歴史，公民」について，2科目を受験したときは，第1解答科目の成績を用います。
- 英語のリスニングの成績については，以下のとおり利用します。
 英語250点満点（筆記200点満点，リスニング50点満点）を第1段階選抜においては200点満点に換算して利用し，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。リスニングを欠席した場合は，リスニングの得点を0点として取り扱います。
 なお，ドイツ語，フランス語，中国語，韓国語及びリスニング免除者は筆記200点満点で第1段階選抜を行い，学力検査等の得点としては配点欄記載の点数に換算して利用します。

（注2）「個別学力検査等」について

- 「数学」について
 - 個別学力検査実施科目
 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」の5科目を併せて「数学」として出題します。
 - 出題範囲
 「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」は全範囲から出題します。「数学B」は「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「理科」について
 - 大学入試センター試験で受験した科目と同じ科目を選択することができます。
 - 物理：「物理基礎」と「物理」を併せた範囲から出題します。
 - 化学：「化学基礎」と「化学」を併せた範囲から出題します。
 - 生物：「生物基礎」と「生物」を併せた範囲から出題します。
 - 地学：「地学基礎」と「地学」を併せた範囲から出題します。

3. 「外国語」について

英語は「コミュニケーション英語Ⅰ」、「コミュニケーション英語Ⅱ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」の5科目を併せて「英語」として出題します。

4. 第1段階選抜について

農学部全体の志願者が農学部募集人員の約3.5倍を上回った場合、大学入試センター試験に利用する教科・科目の得点（ただし、英語は250点満点を200点満点に換算）の合計により、農学部全体の志願者で第1段階選抜を行うことがあります。

5. その他

第1～第6志望まで学科を選択することができます。

Ⅶ 外国学校出身者のための選考

◎外国学校出身者のための法学部入学者の選考

経済・文化等各般にわたる国際的活動の拡大に伴い、海外に在留する日本人で現地の正規の学校や国際学校で教育を受けている者の数は飛躍的に増大しており、諸外国での教育や国際バカロレアのカリキュラムによる教育は、わが国の教育とは異なっているけれども、すぐれた成果を挙げています。

このような状況の下で、諸外国で多様な文化に接触し、外国語も修得しつつ、基礎的学力を身につけた者に入学の機会を与えることは、学生の多様性を確保し、一般学生に対し国際的視野を開く契機を提供することになります。そして、そのことを通じて、グローバルな視点で法と政治の問題を捉え、国際的に活躍しうる有為の人材を養成することが可能となると考えられます。

そこで、国際化時代における大学としてのあり方を考え、外国学校出身者に対して、国籍の制限なく、一般の入学者選抜方法とは別の方法で選考を行います。

実施学部	法 学 部
募集人員	10人以内
出願資格	<p>次の1. 2. 3. 4. 5. 6. のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国において、学校教育における12年の課程を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに修了した者、又は修了見込みの者。 上記の12年の課程には、日本における通常の課程による学校教育の期間も含まれるが、外国において最終学年を含めて原則として2年以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。外国に設置されたものであっても日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その在学期間を外国において学校教育を受けた期間とはみなさない。 〔注〕1. 大学入学資格として少なくとも12年の教育課程を基本とする国において、「飛び級」等により、通算教育年数12年に満たないで修了した者及び修了見込みの者を含む。 2. 「外国において、学校教育における12年の課程」とは、当該外国において制度上正規の学校教育に位置づけられたものであることを要する。 外国において、文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から教育活動に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに修了した者、又は修了見込みの者で、平成31年3月31日までに18歳に達するもの。 上記の12年の課程には、日本における通常の課程による学校教育の期間も含まれるが、外国において最終学年を含めて原則として2年以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。外国に設置されたものであっても日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その在学期間を外国において学校教育を受けた期間とはみなさない。 外国において、平成29年4月1日から平成31年3月31日までに上記「1」「2」以外の学校を卒業した者、又は卒業見込みの者であって、本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成31年3月31日までに18歳に達するもの。 外国において最終学年を含めて原則として2年以上継続して学校教育を受けていることを必要とする。外国に設置されたものであっても日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その在学期間を外国において学校教育を受けた期間とはみなさない。 平成31年3月31日までに18歳に達する者で、外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに授与された者、又は授与見込みの者。 平成31年3月31日までに18歳に達する者で、外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに授与された者、又は授与見込みの者。 平成31年3月31日までに18歳に達する者で、外国において、フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成29年4月1日から平成31年3月31日までに授与された者、又は授与見込みの者。 <p>※ 出願資格について不明な点がある場合は、平成30年10月上旬頃までに法学部教務掛に照会すること。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者について、出願資格「3」に該当する場合、出願資格審査を受けなければならないので、早めに照会すること。</p>
選考方法等	<p>以下の3つの成績を総合評価して、基礎学力と日本語の熟達度を判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 京都大学個別学力検査（前期日程）国語（理系）の成績 ※主として現代文を扱う問題に限って解答を求める。「国語（理系）」について、当日、一部の問題について解答しなくてよいものを指定することがある。 TOEFL-iBTの成績（TOEFL-ITPとTOEFL-PBTは不可） 面接（日本語で実施し、出願書類も考慮する）の成績
出願期間	平成31年1月8日（火）～平成31年1月15日（火）必着
選考期日	平成31年2月25日（月）・26日（火）
合格発表日	平成31年3月10日（日）

そ の 他	<p>学生募集要項等について</p> <p>この選者に関する募集要項は、法学部教務掛で配布します。郵送を希望する者は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記した返信用封筒（角形2号 332 mm×240 mm）を同封し、受信者が日本国内に居住する場合には205円切手を返信用封筒に貼付し、受信者が外国に居住する場合には航空便書状 110 グラム料金相当の国際返信切手券（日本国内では、現地での購入価格に関係なく、1枚につき130円分の切手と交換される。）を同封して、「外国学校出身者出願書類請求」と朱書して下記へ申し込んでください。</p> <p>なお、郵便料金については日本郵政ホームページ（http://www.japanpost.jp）を利用するなどして、各自で確認してください。</p> <p>京都大学法学部教務掛 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話：075-753-3107 メール：gaikoku03*mail2.adm.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）</p>
-------	---

◎外国学校出身者のための経済学部入学者の選考

海外で経済・文化等の活動にたずさわる邦人の数が増すとともに、その子女で諸外国において正規の学校ないし国際バカロレア制度による学校で教育を受ける者の数も飛躍的に多くなっていますが、こうした学校における教育は、わが国の制度による教育とは異なっているにもかかわらず、十分に評価されるべきものです。

諸外国で学校教育を受け、日本と異なる文化に接しながら、しかも十分な基礎的学力を身につけた者に入学の機会を与えることは、国際化時代に即応した大学の役割をはたす上で必要でもあり、有用でもあります。

このため、外国学校出身者に対し、一般の入学者選抜方法とは別の方法で選考を行います。

実施学部	経済学部
募集人員	10人以内
出願資格	<p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者であって、外国において2年以上継続して外国の学校教育を受けている者のうち、平成29年4月1日から平成31年3月31日までに次の1～6のいずれかに該当するもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国の教育制度に基づく教育機関において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による教育期間を含む）を修了した者及び修了見込みの者で、最終学年を含め2年以上継続して学校教育を受けたもの （注）大学入学資格として少なくとも12年の教育課程を基本とする国において、「飛び級」等により、通算12年に満たないで修了した者及び修了見込みの者を含む。 2. 文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC, ACSI, CIS）から教育活動に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程（日本における通常の課程による教育期間を含む）を修了した者及び修了見込みの者で、18歳に達するもの 3. 外国の教育制度に基づく教育機関において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による教育期間を含む）に基づく高等学校相当機関の2年を含む3年間以上継続して学校教育を受けた後、中途退学し、引き続き日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）の第3学年に編入学を認められた者で、卒業したもの及び卒業見込みのもの 4. 外国において、学校教育における12年の課程修了相当の学力認定試験に合格した者で、18歳に達するもの 5. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局の授与する国際バカロレア資格を取得した者で、18歳に達するもの 6. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、18歳に達するもの 7. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、18歳に達するもの <p>※出願資格「2」に該当しないインターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者については、出願資格の確認に時間がかかるため、できるだけ早い時期に、出願資格について経済学部教務掛へ照会すること。</p>
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1次選考・・・出願書類を資料として用い、第1次選考を行う。 2. 第2次選考・・・第1次選考合格者に対し、小論文（日本語）、面接を課し、基礎的学力と日本語の熟達度を判定する。
出願期間	平成31年1月4日（金）から1月10日（木）
選抜期日	平成31年2月25日（月）・2月26日（火）
合格発表日	平成31年3月8日（金）

<p>その他</p>	<p>1. 併願について 本学部では、本学他学部における外国学校出身者選考試験との併願を認めないので、注意してください。</p> <p>2. 学生募集要項等について この選考に関する募集要項は、経済学部教務掛で配付します。郵送を希望する者は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記した返信用封筒（角形 2 号 332mm×240mm）を同封し、受信者が日本国内に居住する場合には 205 円分の切手を返信用封筒に貼付してください。受信者が外国に居住する場合には国々の郵便事情により返信が遅れることが考えられます。そのため国際スピード便（EMS）を利用しますので、国際スピード便のホームページ [http://www.ems-post.jp/] の EMS 料金表を参照し、地域ごとによる重量 300 グラムの料金分の国際返信切手券を返信用として同封のうえ、「外国学校出身者出願書類請求」と朱書して下記へ申し込んでください。</p> <p>京都大学経済学部教務掛 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話：075-753-3493 メール：kyoumu*econ.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）</p>
------------	---

VIII 工学部地球工学科国際コースについて

◎外国人留学生を対象とした入学者の選考

工学部地球工学科国際コースでは、拡大する都市と周辺地域の地球環境・エネルギー問題に配慮して社会基盤を整備、マネジメントするために将来国際的に活躍できる人材の育成を行います。このコースでは、多様な国籍の学生が共に学べるように、卒業までの全ての講義が英語で行われます。

外国人留学生を対象に一般の入学者選抜方法とは別の渡日を必要としない方法で選考を行います。

実施学部・学科	工学部地球工学科
募集人員	30人以内
出願資格	日本の国籍（日本国籍との二重国籍を含む）を有しない者で、以下のうち少なくとも1つに該当する者。 a) 外国において、学校教育における12年の課程を平成31年3月31日までに修了する者。 b) 日本において文部科学省に認められた、または Western Association of Schools and Colleges (WASC), Association of Christian Schools International (ACSI), Council of International Schools (CIS) に認定された外国の教育課程にもとづいた教育機関を平成31年3月31日までに修了し、平成31年3月31日までに満18歳に達する者。 c) 外国において中等教育機関で国際バカロレア、ドイツのアビトゥア、またはバカロレアを取得し、平成31年3月31日までに満18歳に達する者。 d) 上記a) に準ずる者（平成30年6月29日（金）から平成30年7月13日（金）の出願事前資格審査期間に所定の書類を提出し、京都大学によって出願が認められた者）
選抜方法等	出願書類による第1次選抜と、小論文及び口頭試問による第2次選抜により選考を行う。
出願期間	平成30年8月20日（月）から平成30年9月14日（金）
選抜期間	第1次選抜：平成30年10月上旬 第2次選抜：平成30年10月下旬
合格者発表日	平成30年11月9日（金）
その他	このコースの詳細及び募集要項はホームページに掲載しています。 http://www.s-ge.t.kyoto-u.ac.jp/int/ja/

*一般入試で受験された方も合格後、本コースを選択することが可能です。

応募資格	一般入試を受験した工学部地球工学科合格者（国籍不問）
募集人員	10人以内
決定方法	平成31年3月中旬に開催する説明会后、面接を受けた者の中から決定します。
その他	本コースに興味のある方は、事前に下記のホームページで説明会の日程を確認してください。 http://www.s-ge.t.kyoto-u.ac.jp/int/ja/ 問い合わせ先：icp_ug*t.kyoto-u.ac.jp（*を@に変えてください）

IX 特色入試について

各学部の募集人員及び選考方法は下表のとおりです。

なお、詳細については別途公表している「特色入試学生募集要項」をご覧ください。

学部・学科・コース名		募集人員	選考方法	試験実施方式	提出書類	
総合人間学部		5名	書類審査、能力測定考査（文系総合問題、理系総合問題）、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
文学部		10名	書類審査、論文試験、「学びの設計書」に関連する論述試験、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
教育学部		6名	書類審査、課題及び口頭試問によるパフォーマンス評価、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学びの報告書、学びの設計書	
法学部		20名	書類審査、小論文試験、センター試験の成績	後期日程	調査書	
経済学部		25名	書類審査、論文試験、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
理学部		5名	書類審査、数学に関する能力測定考査、口頭試問、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの報告書	
医学部	医学科	5名	書類審査、小論文試験、面接試験	推薦	調査書、推薦書、学びの設計書、TOEFL-IBTのスコアレポート(原本)またはIELTSの成績証明書(原本)、特色事項に関する資料	
	人間健康科学科	先端看護科学コース	20名	書類審査、論文試験、面接試験、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書
		先端リハビリテーション科学コース(理学療法学講座)	5名			
		先端リハビリテーション科学コース(作業療法学講座)	5名			
薬学部	薬科学科	3名	書類審査、論文試験、面接試験、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-IBT、IELTSの受験者成績書の原本、または実用英語検定(英検)の合格証明書の原本のうち、少なくとも一つ。	
	薬学科	3名	書類審査、論文試験、面接試験、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-IBT、IELTSの受験者成績書の原本、または実用英語検定(英検)の合格証明書の原本のうち、少なくとも一つ。	
工学部	地球工学科	3名	書類審査、センター試験の成績	推薦	調査書、推薦書、学びの設計書	
	建築学科	2名	書類審査、センター試験の成績		調査書、推薦書、学びの設計書	
	物理工学科	5名	書類審査、センター試験の成績		調査書、推薦書、学びの設計書	
	電気電子工学科	7名	書類審査、センター試験の成績		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
	情報学科	3名	書類審査、口頭試問、センター試験の成績		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
	工業化学科	7名	書類審査、センター試験の成績		調査書、推薦書、学びの設計書、顕著な活動実績の概要	
農学部	資源生物科学科	3名	書類審査、面接試験、センター試験の成績	学力型AO	調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-IBT、TOEICの受験者成績書の原本、または実用英語検定(英検)の合格証明書の原本のうち少なくとも一つ。	
	応用生命科学科	3名	書類審査、小論文試験、面接試験、センター試験の成績		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
	地環境工学科	3名	書類審査、小論文試験、面接試験、センター試験の成績		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
	食料・環境経済学科	3名	書類審査、小論文試験、センター試験の成績		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
	森林科学科	3名	書類審査、小論文試験、面接試験、センター試験の成績		調査書、学業活動報告書、学びの設計書	
	食品生物科学科	3名	書類審査、口頭試問、センター試験の成績		調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-IBT、IELTS、TOEICの受験者成績書の原本、または実用英語検定(英検)の合格証明書の原本のうち少なくとも一つ。	

注) 法学部を除き、選考の結果によっては合格者数が募集人員に満たない場合がありますが、その欠員分は一般入試(前期日程試験)の募集人員に加えます。

X 障害等のある受験者に対する合理的配慮について

本学では、障害等のある受験希望者からの入学試験における合理的配慮の提供に関する相談を常時受け付けています。下の様式を用いて、志望する学部の教務担当へ連絡してください。

相談の内容によっては対応に時間を要することがありますので、原則として12月末までに連絡してください。また、不慮の事故等で1月以降に相談が必要となった場合も、できるだけ早くに志望する学部の教務担当へ連絡してください。

(様式) A4 判縦	平成 年 月 日
京都大学〇〇学部長 殿	
氏名 (ふりがな) ・性別 ・生年月日 連絡先 (住所 ・電話番号 ・メールアドレス等) 出身学校名 ・卒業/卒業見込み年月 (高卒認定の場合、 認定試験合格/合格見込み年月)	
京都大学〇〇学部に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談を希望します。	
記	
1. 志望する学部・学科, 受験科目 2. 障害等の種類, 程度 3. 受験上希望する配慮事項 4. 添付書類 ・医師の診断書 ・大学入試センター試験受験上の配慮事項決定通知書(写)(通知を受けている者) ・その他, 相談する際に必要と思われる参考資料 例) 障害者手帳(写), 検査結果(写), これまでの教育機関における配慮事項, 日常生活の状況 など	

※本学では、受験上の配慮とともに、修学上の配慮に関する相談も受け付けています。修学上の配慮について、受験上の配慮とあわせて相談する場合は、希望する配慮事項を別紙(A4判縦、様式自由)に記載して、上記様式に添付してください。修学上の配慮に関する相談は、合格発表後あるいは入学後でも構いませんが、対応に時間を要することがありますので、できるだけ早くに学部の教務担当に連絡してください。

※個人情報については、[独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律]及び[京都大学における個人情報の保護に関する規程]に基づいて取り扱います。

【学部・学科の入学受入の方針（アドミッション・ポリシー）】

◇総合人間学部

総合人間学部は、たえまなく変化する現代社会における人間と文明と自然の新たな結びつきを見出すために、人文科学、社会科学、自然科学を横断する「人間の学」の創出をめざしています。この挑戦に積極的に加わりとうとする志をもつ人、人類が直面する様々な課題に向きあう進取の精神をもつ人、持続的で創造的な取り組みを支える教養を身につけたいと考える人を本学部は求めます。

総合人間学部が入学を希望する人に求めるものは、高等学校の教育課程の教科・科目を広く修得することに加えて、その内容を活用する主体的な思考力・判断力・表現力、そして他者と協働しながら学ぶ態度です。

総合人間学部の入学選抜は、京都大学の一般入試において、文系と理系の2つの募集区分を設け、多様な基礎的学力を測ります。また本学部独自の特色入試では、高等学校における学びの成果、基礎的学力とともに、文系と理系の総合的な思考力・表現力を評価します。

◇文学部

1. 京都大学文学部は、哲学・歴史学・文学・行動科学に関わる諸問題を学び考え、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、新たな知的価値を創出することをめざす学生を求めます。

2. 京都大学文学部は入学希望者に対し、以下の点を入学前に具えておくことを求めます。

(1) 総合的な基礎学力をもっていること。

(2) 過去から現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みに関して、深い関心をもっていること。

(3) 高度の文章読解力、および論理的かつ柔軟で、創造性豊かな思考力とそれを表現する力をもっていること。

入学試験においては、これらの力が具わっているかを判定します。

なお、特色入試においては、入学後の勉学についての展望と具体的プランをもっていることも問います。

◇教育学部

本学部は、教育と人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことにより、心、人間、社会についての専門的識見を養成し、さらに広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判断力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓培することで、地球社会の調和ある共存に貢献できる人材の育成を目的としています。

本学部は、以上の目的を理解し、本学部での学修を希望する者に対して、1) 総合的な基礎学力、2) 人間と社会についての深い関心と洞察力、3) 柔軟な思考とゆたかな創造力をもち、大学教育を通して、人間と社会、教育や心理についての関心を深め、論理的・批判的思考力、問題解決力とコミュニケーション能力を身に付けることができる学生を求めています。それらを大学入試センター試験及び「文系」型又は「理系」型の個別学力検査により評価します。

また、いったん他学問分野での専門教育を受け、あるいはさらに社会経験を積んだ本学部以外の大学卒業で、再度、教育諸学における専門教育の勉学を志す者に対しては、学士入学（第3年次編入学）の選抜試験により、同様のことを評価します。

さらに、特色入試選抜においては、上記に加え、(1) 教科及び総合的な学習の時間などにおいて、学習を深め、探究活動を行い、卓越した学力を身に付けていること、あるいは、学校内外の活動で豊かな経験を積み、熟達を通して、深い洞察力を得ていること、(2) 将来、主体的に社会に貢献する志をもっていることを、提出書類、課題と口頭試問に基づく選考、大学入試センター試験により評価します。

◇法学部

21世紀に入り、地球規模での交流が活発化し、科学技術や産業の革新が進む中、世界も日本も大きな転換期を迎えている今日、広い視野から国家や社会のあり方を深く考え、新たなビジョンを示して、時代を切り拓いていく優れた人材が求められています。

このような要請に応えるため、京都大学法学部は、自由の学風の下、豊かな教養を涵養し、国家・社会の制度や組織の設計及び運営等に必要な法学及び政治学等の基本的知識の修得並びに思考力、判断力、構想力及び表現力等の育成を図り、グローバルな視野から、法、政治、経済及び社会を多面的かつ総合的に捉え、多様な価値観や文化を尊重し、地球・自然環境に配慮しつつ、多元的な課題の解決に取り組み、人々が協働し共に生きる社会の実現に貢献できる優れた能力と高い志を備えた人材を養成することを教育目標としています。

1. 法学部では、このような教育目標に基づいて編成・実施される教育課程において学び、学位授与の方針に示される知識及び能力等を修得して、様々な分野で指導的な役割を果たすことができるよう、次に掲げる能力・資質等を備える者の入学を期待しています。
 - (1) 国家・社会の制度や組織等の基礎及び背景を理解し、法、政治、経済及び社会を多面的かつ総合的に捉える基盤とするため、人間、社会及び自然に関する基本的知識及び見方・考え方を確実に身につけていること。
 - (2) 国家・社会の制度や組織の設計及び運営に携わり、企画立案を行い、課題を解決する基盤とするために、(1)に掲げる知識及び見方・考え方を活用して、多元的な課題を考える思考力、判断力及び構想力等の基本を身につけていること。
 - (3) 様々な分野で、多様な人々と協働し、指導的な役割を果たす基盤とするため、多様な考え方を理解し、論拠を示して自らの意見を述べるができる基本的なコミュニケーション能力、とりわけ論理的な文章力の基本を身につけていること。
 - (4) グローバル社会において活躍するために必要な英語その他の外国語の基本的な四技能をバランスよく身につけていること。
 - (5) グローバルな視野から国家・社会に関する事象に強い関心を持ち、このような事象を本質から理解しようとする知的探求心を有すること。
 - (6) 未だ答えのない課題等を自ら見だし、文献や資料等を調査して、徹底して考え抜こうとする自学自習の姿勢を有していること。
2. 法学部では、こうした資質・能力等を備えているか否かを、次のような入学者選抜により判定します。
 - 一般入試選抜においては、5教科8科目又は6教科8科目の大学入試センター試験及び論述式試験を基本とする4教科の個別学力検査等により、上記の(1)から(6)の能力・資質等を総合的に判定します。
 - 特色入試においては、5教科8科目又は6教科8科目の大学入試センター試験及び調査書の成績、日本語と英語の文章を題材とした小論文試験により、上記の(1)から(6)の能力・資質等について、特に(3)(5)及び(6)の能力・資質等を重視して総合的に判定します。

◇経済学部

経済学・経営学は個人から政府に至るまでの幅広い対象の経済活動ならびに企業の営利活動を研究対象とし、個人や社会の厚生の上を目指す学問です。その研究対象は決して単純ではなく、財政、産業、雇用、金融、地球環境などに解決すべき諸問題が次々と発生し、複雑性を増しています。京都大学経済学部は、自由の学風を維持しつつ、経済学・経営学の基礎的な科目の教育を充実すると共に、絶えず新しい分野の学問を教育することを心がけ、社会経済の変化に柔軟に対応し、解決策を発見、創造できる人材を育成することで学界、官界、産業界に貢献してきました。このような歴史を踏まえ、京都大学経済学部は、経済学・経営学的分析能力を修得できる知力と探究心を持ち、かつ、教員や他の学生と積極的に討論を重ねることにより、自主的に考え創造的な提案が行える人材に成長できる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

【経済学部が求める学生像】

- ・ 高等学校教育を通じて広範で高度な基礎知識を身につけるとともに、論理的思考力ならびに語学能力を修得している人
- ・ 社会・経済活動全般に積極的に関与したいと考える、知的好奇心が旺盛な人

京都大学経済学部が求めるような学生の成長を促すうえでは、多様な背景をもつ学生を受け入れることが重要であり、現在、「文系入試」、「理系入試」および「特色入試」という3種類の学力検査を実施しています。定員の多くを占める文系入試においては、経済学・経営学を学ぶための基礎となる社会と数学、論理的思考力を担保する国語、専門教育や卒業後の国際的活動に不可欠な英語の4科目に関して個別学力試験を実施しています。理系入試においては、文系入試における社会の試験に代えて理系用の数学試験を課すことで、経済分析で重要となる数理的能力を重視した選抜を行っています。特色入試では、書類審査の後、筆記試験で論文を課し、与えられた文章や資料を理解して問題点を把握できる能力、ならびに、自己の主張を的確に表現できる論理構成能力を重視した選抜を行っています。また、これらの3種類の入試においては、総合的学力の評価を行うために大学入試センター試験の点数を取り入れた合否判定を行っています。その他にも、外国人留学生、外国学校出身者、3年次編入者向けに、多様な学力検査の機会を提供しています。

◇理 学 部

理学は自然現象を支配する原理や法則を探究する学問であり、その活動を通じて人類の知的財産としての文化の深く大きな発展に資するとともに、人類全体の生活向上と福祉に貢献する知的営為であります。京都大学理学部は、自由な雰囲気の下での学問的活動を何よりも大切に、新しい学問分野の創造に重要な役割を果たしてきました。その一端は、卒業生の中から4名のノーベル賞受賞者と2名のフィールズ賞受賞者を出したことからもうかがえます。現在もこの学風を継承し、多くの優れた人材を輩出する教育機関として更なる発展を続けています。京都大学理学部は、自由の学風の下で、将来の理学の創造、発展、応用、普及のための能力と知識を身につけることができる学生を求めており、以下のような学生の入学を期待しています。

【理学部が理想とする学生像】

- ・自由を尊重し、既成の概念を無批判に受け入れることなく、自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・高等学校の教育課程により培われる十分な科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人

京都大学理学部では1学科制のもと、「緩やかな専門化」を経て、それぞれの学生の能力・適性に合致した専門分野に向う教育を行っています。高等学校における数学と理科は、入学後、理学の各分野のより高度な内容を学ぶための基礎であり、それに対応できるような深い理解が求められます。また、国語は、論理的にものごとを考え表現する力の基礎となります。英語の力は、入学後、専門分野の学習、そして、将来の国際的な活動を支えるものとなります。したがって、入学する学生には、将来の専門にこだわることなく、高等学校において、幅広い学習を行ってこられることを期待します。これらの学力を測るために、京都大学理学部では、数学・理科(物理、化学、生物、地学から2科目)・国語・英語の個別学力検査を実施するとともに、大学入試センター試験の点数も取り入れた合否判定を行っています。

また、理学の中でも特に数理科学の分野では、高等学校時から極めて優れた才能を現す者が見受けられます。そのような学生を求めため、京都大学理学部では特色入試を行い、志願者の数学についての取り組みや達成に関する報告書等の提出書類、数学に関する能力測定考査、口頭試問、および大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定しています。

理学部の教育の概要はこちらをご覧ください：<http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/ja/about/divisions.html>

◇医 学 部

◎医学科

京都大学医学部は、1899年（明治32年）に京都帝国大学医科大学として創立された百有余年の歴史と伝統を持つ医学部として、世界に誇る指導的な医学者、医学研究者を輩出してきました。医学部医学科は、京都大学が創立以来築いてきた自由の学風を継承し、医療の原点である「人を愛する」精神のもと、学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しています。

このような方針を踏まえ、世界の医学・医療の発展を担い、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成するために、以下のような学生の入学を期待します。

【医学部医学科が望む学生像】

- ・自ら課題を発掘する好奇心や探究心、それを解決しようとする主体性を持っている人
- ・高い倫理性と豊かな人間性を備え、他者との協調性を持っている人
- ・優れた知的能力とともに、国際的視野を持っている人

入学する学生には高等学校等において、教育課程の教科・科目の習得による基礎学力に加え、分析力や俯瞰力により、これを高度な学びへと展開できる向学心を培うことを求めます。医学部医学科が望む学生を選抜するために、一般入試（前期日程）は、大学入試センター試験並びに個別学力審査及び面接試験により、総合的に合格者を決定します。

また、医学・生命科学に深い関心を持ち、真摯な姿勢、強い熱意を持って真理を探究し、世界の医学をリードする医学研究者としての資質・適性を持つ人材を求め、特色入試を実施します。高等学校での成績および英語能力において所定の基準を満たす学生を対象に、高等学校での取り組みや医学研究に対する考えに関する報告書等の提出書類並びに小論文試験及び面接試験により、合格者を決定します。

◎人間健康科学科

京都大学医学部人間健康科学科は、1899（明治32）年に設置された京都帝国大学医科大学附属医院看護婦見習講習科に始まり幾多の変遷を経て、数多くの医学・医療従事者を輩出してきました。その歴史と伝統を基盤とし、21世紀の医学・医療の発展を担う「人間健康科学（Human Health Sciences）」の確立を目指しています。

そこで、本学教育の基本理念のもと、自由の学風を継承し、人類の健康と福祉に貢献する高度医療専門職及び総合医療科学領域における世界トップレベルの独創的な学術研究をリードする人材の育成を使命とし、以下のような学生の入学を期待します。

【医学部人間健康科学科が望む学生像】

- ・未知へと挑戦する進取の気性に富む人
- ・真理を追求する情熱を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を備えている人
- ・優れた知識と技能及び思考力・判断力・表現力を持ち、自学自習のマインドを持つ人
- ・協調性に優れ、周囲の人間と良好なコミュニケーションをとることができる人
- ・将来、高度医療専門職、総合医療科学領域において、国内外の独創的な学術研究をリードする意欲のある人

数学と理科については、医学的、科学的な理解と、より高度な知識を学ぶために基礎となる学問であり、本学科では十分な理解が求められます。国語については、一般的に必要な基礎知識と論理的な考え方、表現力を身につけるため、また、英語については、国際的に通用する情報を確実に得てグローバルに活躍するためのコミュニケーション能力の涵養が重要となります。したがって、入学する学生は高等学校においてそれぞれの科目を幅広く学習していることを期待します。

これらの学力を測るため、本学科では、数学・理科（物理・化学・生物のうちから2科目）・国語・英語の個別学力検査を実施するとともに、大学入試センター試験の点数を取り入れて、合格者を決定します。

また、将来のビジョンが明確にあり、その分野への関心が非常に高い優れた人材を求めするため、特色入試を導入し、高等学校における取り組みや活動、大学入学後の学習設計に関する書類選考と、論文試験並びに面接試験及び大学入試センター試験により、合格者を決定します。

◇薬学部

◎薬科学科

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーを輩出してきました。

薬科学科では、創薬に関係する幅広い分野において、将来、リーダーとして国際的に活躍することのできる人材を育成しています。そのため、次のような人材を求めています。

- ・高等学校等における学習・課外活動を通じ、十分な基礎学力とコミュニケーション能力を有していること。
- ・自ら目的を設定し挑戦できる行動力があること。
- ・創薬に関心と興味を持ち、将来創薬領域で世界をリードできる薬学研究者を目指していること。

特色入試においては、高等学校における学業活動、志望動機・入学後の学習設計、大学入試センター試験および英語能力試験、論文試験、面接試験によりこれらの点を評価し、入学者選抜を行います。一般入試においては、大学入試センター試験および個別学力検査により基礎学力を評価します。

◎薬学科

薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーを輩出してきました。

薬学科では、医療薬学に関係する幅広い分野において、将来、医療薬学研究者の国際的リーダーとして活躍することのできる人材、および高度な先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーとして社会に役立つ人材を育成しています。そのため、次のような人材を求めています。

- ・高等学校等における学習・課外活動を通じ、十分な基礎学力とコミュニケーション能力を有していること。
- ・自ら目的を設定し挑戦できる行動力があること。
- ・先端医療・医療薬学に関心と興味を持ち、将来、医療薬学領域で世界をリードできる医療薬学研究者、および先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーを目指していること。

特色入試においては、高等学校における学業活動、志望動機・入学後の学習設計、大学入試センター試験および英語能力試験、論文試験、面接試験によりこれらの点を評価し、入学者選抜を行います。一般入試においては、大学入試センター試験および個別学力検査により基礎学力を評価します。

◇工 学 部

京都大学工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する。」ところにあります。「自由の学風」とは、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと見るといことです。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する。」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を主体とする学部である。」と考えられています。「基礎を重視する。」と言いますと、やや異質な印象を持たれるかもしれません。しかし、京都大学工学部では、「基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用展開や技術の発展を可能とするための必須条件である。」という理念の下に、この教育方針を採っています。

このような方針の教育を受けてもらうために、次のような入学者を求めています。

1. 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
2. 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと確かめ、得られた情報や知識を整理統合し論理的に考察することによって、物事の本質を理解しようとする人。
3. 日本語・外国語を問わず、自らの意見や主張をわかりやすく発信する能力を身に着けるために必須の基礎的な言語能力とコミュニケーション能力を持った人。
4. 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティーに満ちた人。

入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、数学・理科・英語・国語の基礎学力の評価に重点を置いて、個別学力検査および特色入試を実施し、上述の観点から多様な人材を評価・選抜しています。

なお、特色入試では、上記の基礎学力に加えて、特筆すべき理系の能力を持つ人材を求めて、学科ごとに、入学を望む学生像に応じて、調査書、推薦書、顕著な活動実績の概要、学びの設計書、大学入試センター試験の成績、口頭試問の中から必要項目を選択・組み合わせて、人物を評価しています。

◎地球工学科が望む学生像

住みやすく豊かな都市と地域、安全に暮らせる国土、資源・エネルギーを基礎とした持続的文明、環境に配慮した地球社会を築いていくために、広く社会に役立つ土木工学、資源工学、環境工学を学びたい人を求めています。社会に貢献するための科学技術を学びたい人、多様な技術を集約して問題の解決をしたい人、国際的に活躍したい人、官・民・学の広い範囲から就職先を考えたい人、に最適な学科です。地球工学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と思考力を備えた人を求めます。

◎建築学科が望む学生像

人間生活に密接に係わる建築は、多様な技術を総合した創造的な努力によってつくりだされます。このため、自然科学だけでなく、人文科学、社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生を歓迎し、その才能を伸ばす教育を行います。建築家、建築技術者、研究者、建築・都市行政の担当者、各種事業に携わるプランナーなどを目指す人を望みます。

◎物理工学科が望む学生像

次世代の画期的な機械システム、新材料、エネルギーシステムを開発すること、宇宙空間への活動の場を拡げていくことに強い関心を持ち、これらの課題の実現に向け、古典物理学から近代物理学に到る幅広い物理学を基礎とした工学を学ぶ意欲を持つ人を求めます。物理工学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と思考力を備えた人を求めます。

◎電気電子工学科が望む学生像

自然現象や科学技術、その人間生活との関わりなどに対して広い関心と旺盛な探究心をもつとともに、電気電子工学関連の学術分野へ強い興味を有し、専門教育を受けるのに十分な基礎学力と論理的思考力を備えた創造性豊かな入学者を求めます。

◎情報学科が望む学生像

高度情報社会における幅広い問題を情報学の知識と数理的思考により解決することに強い関心を持つ人を求めます。数学、物理学をはじめとする理科系科目に関する十分な基礎学力と論理的思考力に加えて、情報学が関係する人文・社会科学を含めた諸学問に対する興味を持つ人を求めます。

◎工業化学科が望む学生像

化学および化学に関連する工学のすばらしさを理解し、学習する志と意欲をもち、既成概念にとらわれずに物事を論理的に考え、さらに自ら問題を解決しようとする人を求めます。したがって、高等学校での学習内容をよく理解し、工業化学科での専門教育を受ける上で十分な基礎学力と能力を有していることが望まれます。

◇農 学 部

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である「生命・食料・環境」に関わる様々なかつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科ごとに異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、応用力と適応力をもって、それぞれの専門教育に必要な学力を有する学生を求めています。その学力を測るため、一般入試では全学科共通で大学入試センター試験の得点に加え、国語・数学・理科（物理、化学、生物、地学から2科目）・外国語（英、独、仏、中から1科目）の個別学力検査を実施して入学者選抜を行っています。また、各学科の示す人材を求めるために特色入試も行い、調査書、学業活動報告書、学びの設計書、大学入試センター試験の成績のほか、英語能力検定試験、小論文、口頭試問、面接試験を学科ごとに組み合わせて合否判定を行っています。

◎資源生物科学科

農業、畜産業および水産業が抱える諸問題や生物学的諸現象に広く関心を持ち、勉学意欲に富み、問題に対して幅広い視点から論理的に解決案を見いだし得る人材を求めます。したがって、英語などの基礎科目について十分な素養を備えているとともに、とりわけ生物をはじめとする理科の科目に関して十分な学力を有していることが望まれます。このような学生を選抜するために、一般入試を行うとともに、明確な問題意識とそれを解決しようとする極めて高い意欲のある人を特色入試で選抜します。

◎応用生命科学科

生命科学、食料生産、環境保全に強い関心を持ち、生命現象や生物の機能を化学的な視点によって解明・活用することに興味がある人を求めます。また、自分の考えをもつとともに異なる意見にも耳を傾けることができ、自分の考えをまわりのひとに的確に伝えることができる人が望まれます。その選抜にあたっては、筆記試験による一般入試の他に、未知の領域に好奇心をもって挑戦できる人材を選考する目的で特色入試を行います。

◎地域環境工学科

一般入試では、農業・農村問題や環境問題、人類への食料供給問題に強い関心をもち、これらの問題解決に向けた物理学・数学を基礎とした工学的・技術的な方法論に関し勉学を志す人を求めます。ただし、農業生産と密接な関係があることから、生物学や生命科学などにも強い関心を持つ学生が望まれます。特色入試では、食料・環境・農業などの分野において、高度な専門知識と工学的問題解決能力を持って社会のリーダーとなるべき人材を求めます。特色入試において、具体的には大学入試センター試験による基礎学力とともに、小論文試験により問題解決能力、論理的思考力について、面接試験により意欲、適性及び識見について評価します。

◎食料・環境経済学科

一般入試では、食料、環境、農林水産業等において生ずる様々な社会・経済問題に対して強い関心を持ち、幅広い観点から自身の力で論理的・実証的に問題の解決に向かって努力する人材を求めます。理科系科目に興味を持ちつつ、経済学を基本としながらも、経営学、社会学、歴史学など人文・社会科学を積極的に勉学したい学生を望みます。特色入試では、一般入試によっては把握できない能力を有し、将来、高度な専門知識を持ち、食料、環境、農林水産分野の発展を主導できる可能性のある人材を求めます。

◎森林科学科

身近な生活空間から地球規模の環境問題までを視野に入れて、森林生態系の保全と活用、森林由来の生物資源の利用、森林と人間の共生などの課題に積極的にチャレンジする人材を求めます。一般選抜においては、応用力、適応力、科学的解析力などをバランスよく兼ね備えた人材を重視します。特色入試では、森林科学の立場から社会に貢献するための高度な専門知識と問題解決能力を習得する強い意欲と能力のある人材を望みます。

◎食品生物科学科

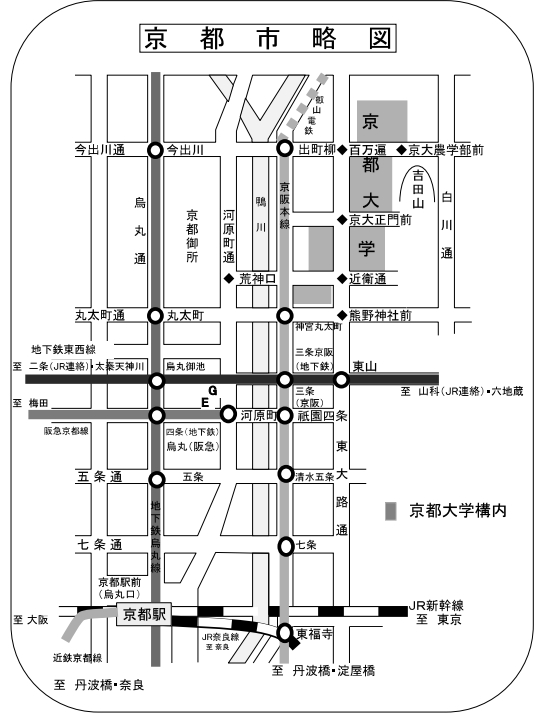
食の観点から、「生命・食料・環境」に関わる課題を包括的に取り組み、科学的に解決する人材を求めています。具体的には、食に関わる幅広い問題に関心を持つとともに、生化学、有機化学、物理化学および分子生物学を基盤とする生命科学はもとより、人と社会に関わる哲学、経済学など人文・社会科学の基礎科目を学ぶ意欲を持ち、これらの学問的背景のもとに、本学科の学理を修得し、将来、産・官・学の各分野において、食品生産工学、食品生命科学および食品健康科学に関わる創造的な研究ならびに開発・生産活動を、高い倫理性とリーダーシップを持って実行できる人材を求めています。その選抜にあたっては、筆記試験による一般入試の他に、国際的に活躍できる人材を選考する目的で、口頭試問による特色入試を行います。

京都大学構内図

(吉田キャンパス)

- ◎ 各学部教務掛等所在地
- ① 農学部
- ② 理学部
- ③ 文学部
- ④ 教育学部
- ⑤ 法学部
- ⑥ 経済学部
- ⑦ 工学部
- ⑧ 総合人間学部
- ⑨ 医学部医学科, 医学部人間健康科学科
- ⑩ 薬学部

◆教育推進・学生支援部入試企画課



乗換(電車・バス・徒歩)等案内 ♀ 熊野神社前

主要鉄道駅	乗車バス停	市バス系統	行先	下車バス停
京阪本線 出町柳駅	文・教育・法・経済・工は当駅下車, 東へ徒歩約15分		総合人間・理・農は徒歩約20分	
京阪本線 神宮丸太町駅	医(医学科)・薬は当駅下車, 北東へ徒歩約10分		医(人間健康科学科)は当駅下車, 東へ徒歩約5分	
地下鉄東西線 三条京阪駅	地下鉄東西線「三条京阪」にて京阪本線「三条駅」に乗換可(地下連絡通路を通過して徒歩約5分) ※京阪本線出町柳駅(三条駅から約3分, 終点)または神宮丸太町駅下車後徒歩(上記参照)			
阪急京都線 河原町駅	阪急京都線「河原町駅」にて京阪本線「祇園四条駅」に乗換可(東改札口→出口1より四条大橋を渡り徒歩約5分) ※京阪本線出町柳駅(祇園四条駅から約5分, 終点)または神宮丸太町駅下車後徒歩(上記参照)			
	四条河原町E	201系統 「祇園・百万遍」 ゆき		「京大正門前」又は「百万遍」 医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」
	31系統 「東山通 高野・岩倉」 ゆき			
四条河原町G	3系統 「百万遍 北白川仕伏町(上終町京都造形芸術大前)」 ゆき			「百万遍」 薬は「荒神口」
	17系統 「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」 ゆき			「百万遍」 理・農は「京大農学部前」 薬は「荒神口」
京都駅 (JR・近鉄)	JR奈良線「東福寺駅」(JR京都駅より約3分, 全列車停車)にて、京阪本線への乗換可 ※京阪本線出町柳駅(東福寺から約12分, 終点)または神宮丸太町駅下車後徒歩(上記参照)			
	京都駅前 (烏丸口)D2	206系統 「東山通 北大路バスターミナル」 ゆき		「京大正門前」又は「百万遍」 医(医学科)・薬は「近衛通」 医(人間健康科学科)は「熊野神社前」
	京都駅前 (烏丸口)A2	17系統 「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」 ゆき		「百万遍」 理・農は「京大農学部前」 薬は「荒神口」
	京都駅前 (烏丸口)D3	— 「京大快速」		「京大正門前」又は「百万遍」
八条口 E1	— 循環路線バス「hoop」			「京都大学前」

※ 京都駅前および四条河原町のバス停にはのりば表記を行っています。

【インターネット出願について】

京都大学ではインターネット出願を導入しています。一般入試学生募集要項は、12月中旬（予定）より京都大学ホームページに掲載する予定です。

【大学案内等の請求方法】

大学案内等の各種冊子については、以下の①～④の方法により取り寄せることができます。

①大学のホームページから請求する方法

京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp>）から「テレメール」・「モバっちょ」を利用して大学案内等の資料が請求できます。

ホーム>入試・高大連携>一般入試>選抜要項・大学案内・募集要項等の請求から各資料請求画面へアクセスできます。総合人間学部案内、理学部案内、工学部案内、農学部案内につきましては、各学部のホームページでも公開しています。

②「テレメール」で請求する方法

下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスし、請求を希望する資料請求番号を入力またはプッシュしてください。

インターネット		自動音声応答電話
パソコン・スマートフォン・携帯電話 共通アドレス	http://telemail.jp	IP 電話 050-8601-0101 （24 時間受付） ※一般電話回線からの通話料金は 日本全国 3 分毎に約 12 円です。
QR コード ※QR コードからアクセスした場合は 資料請求番号の入力は不要。		

資料名	資料請求番号	配付時期
大学案内	564602	7月中旬
総合人間学部案内	564622	4月上旬
理学部案内	623682	7月中旬

資料名	資料請求番号	配付時期
工学部案内	544622	7月下旬
農学部案内	564732	8月上旬

その後はガイダンスに従って登録してください。

※資料請求から1～2日後に資料が届きます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては3日以上かかる場合もあります。4日以上経っても届かない場合はテレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお、発送開始日以前の請求分は発送開始日に一斉に発送されます。

※資料請求代金と支払手数料が必要です。

※料金は資料到着後、同封されている支払方法に従い、表示料金をお支払いください。コンビニ支払い、ゆうちょ銀行・郵便局での支払い、携帯払い、クレジットカード払いができます。

②の請求方法についての問い合わせ先：テレメールカスタマーセンター 電話：050-8601-0102（9:30～18:00）

③「モバっちょ」で請求する方法（大学案内のみ）

携帯電話、スマートフォン、パソコンから下記へアクセスしてください。急ぎの方は宅配便の利用もできます。

<http://djic-mb.jp/kyoto-u3/>

QR コード ※対応する携帯電話で読み取れます。

※資料請求代金と支払手数料が必要です。

※携帯払い、スマホ払い、クレジットカード払い、コンビニ後払いができます。

※携帯電話・スマホの機種、携帯電話会社との契約状況によって、通話料金と一緒に支払いできない場合があります。その場合はコンビニ後払いを選択してください。



③の請求方法についての問い合わせ先：モバっちょカスタマーセンター 電話：050-3540-5005（平日 10:00～18:00）

④京都大学においても下記にて配布します。

○教育推進・学生支援部入試企画課：9:00～17:00（月～金曜日〔祝休日・年末年始は除く〕）

○東京オフィス（新丸の内ビルディング 10 階）：10:00～20:00（月～土曜日〔祝休日・年末年始は除く〕）

